

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所 属 保健医療学部リハビリテーション学科

名 前 田邊浩文

作成日 2026 年 4 月 20 日

1. 教育の責任

田邊浩文(以下、作成者)は、保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻の教員として、学部1年次から4年次までの講義・演習・実習科目を担当している。担当科目は、作業療法の基礎理解から臨床実践能力の育成、研究指導に至るまで幅広く、各授業のシラバスは湘南医療大学 Web ポータル上で学生および教職員に公開している。

科目名	対象 学部 ・学年	必修 ・選択	開講年度、 前期・後期・通年	受講 者数	単位
見学実習(作業療法)	1	必須	1年次後期	40	1
地域リハビリテーション実習	3	必須	3年次前期	40	1
評価実習	3	必須	3年次後期	40	4
作業療法評価学総合演習	3	必須	3年次後期	40	1
日常生活支援論Ⅱ(各論)	2	必須	2年次後期	38	1
作業療法概論	1	必須	1年次前期	40	1
作業療法研究法	3	必須	3年次前期	40	1
作業療法研究法演習	3	必須	3年次後期	40	1
義肢装具学	3	選択	3年次後期	40	1
作業療法卒業研究	4	必須	4年次通年	31	1
チーム医療論	4	必須	4年次後期	31	1
総合臨床実習Ⅰ(作業療法)	4	必須	4年次前期	31	1
総合臨床実習Ⅱ(作業療法)	4	必須	4年次前期	31	1

担当科目は、身体機能障害領域における専門知識・技能の修得、臨床実習に向けた実践的能力の育成、研究的視点の獲得を目的とするものが中心である。これらは、学生が作業療法士として必要な知識と技能を身につけ、臨床現場で適切に活用するための重要な学習機会であり、教育上の責任は極めて大きい。特に、基礎医学で学んだ知識を臨床場面に結び付けて理解することは、作業療法士養成において重要な課題である。しかし学生の中には、学修内容と臨床実践との関連を十分にイメージできない者もいる。そのため作成者は、視覚教材や症例提示、演習形式の授業を取り入れながら、基礎知識がどのように作業療法評価や治療に活用されるのかを具体的に示し、理解を促すよう努めている。

また、学内外での研究活動や学会活動、国際共同研究、学内委員会活動を通して得た知見を教育に還元し、学生に対して最新の知識と広い視野を提供している。こうした教育活動を通して、専門性のみならず、多職種連携能力や国際的視点を備えた作業療法士の育成を目指している。

本学での授業の他に、以下のような活動を通して、学内・学外で得られた情報を教育活動に活かしている。

- 1) 大学内各種委員会(研究科管理運営委員会、研究科委員会、FD活動他)
- 2) 米国 **Constraint-induced Movement Therapy** リサーチグループメンバー
- 3) ポーランドヴツィ医科大学およびボズナン医科大学共同研究員
- 4) 機関誌作業療法編集委員
- 5) 精華大学工学部共同研究員
- 6) 日本作業療学会・神奈川県作業療学会の演題査読委員
- 7) 各種研修・講習会講師(CIセラピーの講師等)
- 8) ベトナム・ハノイ医科大学共同研究活動
- 9) 間葉系幹細胞治療研究(アブエニユーセルクリニック)

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

湘南医療大学は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」を理念として掲げている。作成者はこの理念に基づき、保健医療学を基盤として、保健・医療・福祉・教育の分野で社会に貢献できる人材の育成を目指している。作業療法士に求められるのは、専門知識や技術だけではない。対象者一人ひとりの生活や価値観を尊重し、その人らしい生活を支援する倫理観と人間性が不可欠である。そのため教育においては、科学的根拠に基づく知識・技術の修得とともに、対象者を全人的に理解し尊重する姿勢を育むことを重視している。さらに、医療や福祉を取り巻く社会環境は急速に変化しており、作業療法士には卒業後も継続して学び続ける姿勢が求められる。そのため学生には、専門職としての基礎力だけでなく、変化する社会に適応しながら主体的に学び続ける力を養うことが重要であると考えている。

2) 理念をもつに至った背景

医療・福祉の現場では、多職種が協働しながら対象者を支援することが求められる。そのためには、専門知識だけでなく、他者を理解し尊重する姿勢、多面的・多角的に物事を考える力が必要である。作成者は、教育の本質は単なる知識伝達ではなく、専門職として必要な倫理観と人間性を育てることであると考えている。学生が大学での学びを通じて豊かな人間性を育み、多職種連携の中で主体的に行動できる作業療法士へ成長することを願い、この理念を持つに至った。

3. 教育の方法・戦略

このような理念・目的を実現するために、わたしが実践している教育方法について述べる。

(1) 基礎知識と臨床実践を結びつける教育

解剖学・生理学・運動学などの基礎医学と、疾患学・作業療法評価学・作業療法実践を体系的に関連づけて教授することで、科学的根拠に基づいて判断・実践できる力を育成してい

る。例えば「作業療法概論」では、作業療法の対象領域や役割を学ぶだけでなく、グループディスカッションを通して作業療法士の専門性を考察させている。また、「作業療法研究法」および「作業療法研究法演習」では、研究課題の設定から文献検索、研究計画立案までを段階的に学ばせ、論理的思考力と研究的視点を養っている。

(2) アクティブラーニングによる実践力の育成

学生が主体的に考え、議論しながら学ぶアクティブラーニングを積極的に導入している。作業療法評価学の授業では、仮想症例を用いた事例検討を行い、必要な評価項目を検討・議論し、その結果をもとに対象者の全体像を整理・発表する。

このような取り組みにより、知識を単なる暗記にとどめず、臨床で活用できる思考力・判断力・表現力を育成している。

(3) 文献検索能力と生涯学習力の育成

医療専門職には、科学的根拠に基づいた実践を行うために文献検索能力が不可欠である。そのため授業では、信頼性の高い文献の検索方法や批判的吟味の方法を指導し、学生が必要な情報を主体的に収集・判断できる能力を養っている。これは卒業後も新しい知識を学び続ける基盤となるものであり、変化する医療・福祉の現場に柔軟に対応できる専門職の育成につながると考えている。

4. 学習成果

本学では、前期・後期ごとに授業評価アンケートを実施している。作成者の担当する主要 4 科目における評価は、いずれも学部平均を上回り、「意欲」「理解」「自発性」「コミュニケーション」の各項目で高い評価を得ている。この結果は、基礎知識と臨床応用を結びつけた授業構成や、学生参加型の教育方法が一定の成果を上げていることを示している。しかし、現状に満足することなく、より理解しやすく魅力ある授業づくりを継続する必要があると考えている。

5. 改善のための努力

より効果的な教育を実現するため、以下の改善に取り組んでいる。

- ✓ 授業内容と臨床実践との関連を具体例で示す
- ✓ カリキュラム全体における授業の位置づけを明確にする
- ✓ 小テストや口頭質問で理解度を確認する
- ✓ 学生の理解度に応じて授業進度を調整する
- ✓ フィードバックを丁寧に行い、学習内容の定着を図る
- ✓ 学習方法の確認を通して主体的学習を促す

これらの工夫により、学生が自ら考え、学び続ける姿勢を育む授業を目指している。

6. 今後の目標

短期目標

授業成果の客観的評価方法を導入する

授業改善のセルフモニタリングを継続する

FD 研修会や教育研究会へ積極的に参加する

研究活動・社会貢献活動を教育に還元する

長期目標

学生満足度と学習成果の双方を高める授業を実現し、専門知識・技能だけでなく、変化する社会に対応しながら生涯にわたって学び続けることのできる作業療法士を育成することである。そのために、教育方法の改善と自己研鑽を継続し、最新の知識や教育技法を積極的に取り入れながら、魅力ある教育を実践していきたい。